

全産業DI値、14.1ポイント改善 特に製造業が大幅な改善を示す

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。

平成27年10月～12月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率72.0%でした。

【主要な表現について】○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲22.0で前回(H27年7月～9月)より14.1ポイント改善。今回は全業種で改善となりました。特に製造業が42.9ポイントの大幅な改善がされました。経営上の問題点としては製造業では製品ニーズの変化への対応。卸売業では販売単価の低下・上昇難があげられました。

全産業売上高の推移(表2)：前回(H27年7月～9月)より全体で5.8ポイント悪化しました。

全産業資金繰りの動向(表3)：前回(H27年7月～9月)より21.9ポイント改善しました。

全産業採算の動向(表4)：前回(H27年7月～9月)より1ポイント改善。3期連続の改善となりました。

全産業雇用人員の動向(表5)：前回(H27年7月～9月)のDI値から3.8ポイント改善しました。

表1

業種別業況判断の動向

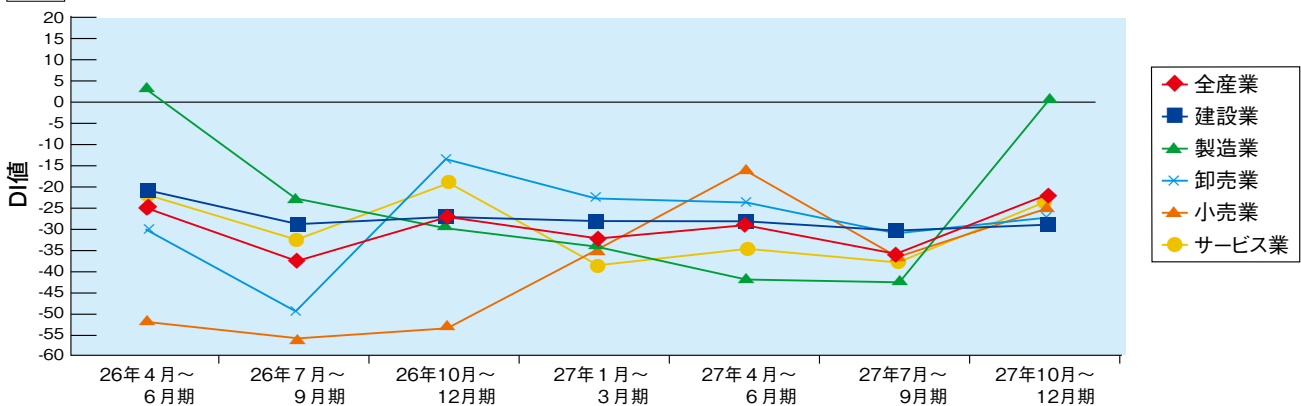


表2

全産業売上高の動向

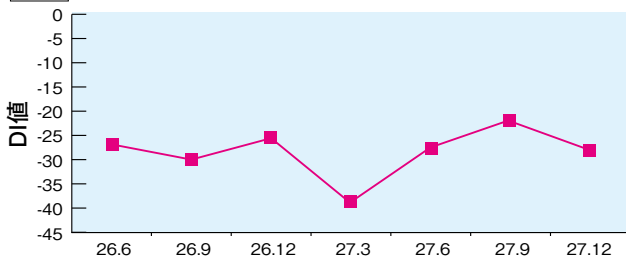


表3

全産業資金繰りの動向

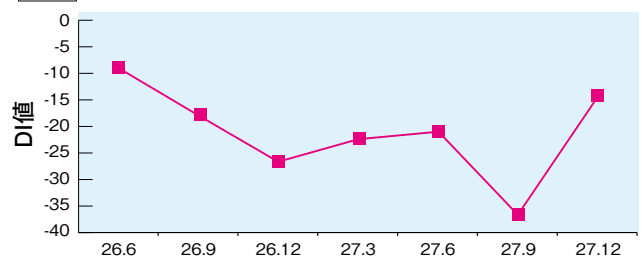


表4

全産業採算の動向

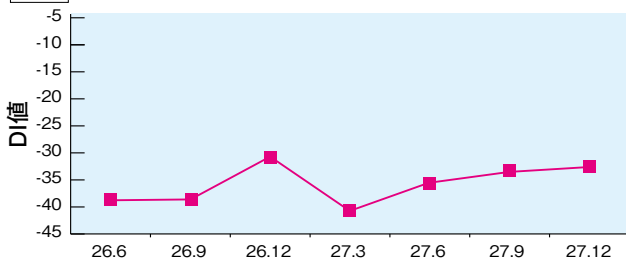


表5

全産業雇用人員の動向

